



講座のアピールポイント

消化器内科は、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸から構成される消化管領域と、肝臓・胆嚢・膵臓から構成される肝胆膵領域に大別されます。消化管領域で皆さんがご存じの病気は、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、大腸ポリープなど。肝胆膵領域では肝硬変や胆石などでしょうか。

これらの病気も大切ですが、消化器内科の領域には各臓器に「がん（いわゆる悪性腫瘍）」が存在します。良性の病気であっても、大量飲酒による肝不全（肝臓の機能が停止した状態）や急性膵炎（膵臓が溶けてしまう状態）は命にかかわる重要な病気です。

また、最近の食生活の欧米化も影響して逆流性食道炎（胃酸が食道に逆流して食道がただれてしまう状態）や脂肪肝（肝臓に脂肪が蓄積して肝の働きを妨げた状態）などの病気が急増しており、これらの病気からの発がんもきわめて重要な問題です。

消化器内科では、多数の症例数に裏付けられた臨床データを検討して、それぞれの病気の病態解明や治療効果向上につなげる研究を行っています。一方で、大学院生を中心として実験動物を用いた基礎的な研究も行っています。これら研究は臨床的意義に重点が置かれており、その結果が現在および将来において患者様自身の利益として反映されることを前提として取り組んでいます。

講座研究紹介

以下に、現在消化器内科で行われている研究の一部を紹介します。

○消化管領域

1. 消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築
胃カメラ、大腸カメラなどの臨床データ、治療手技などを一括管理して検討する研究
2. 早期胃癌診断に対する「京都分類胃癌リスクの内視鏡所見スコア」の有用性
慢性胃炎の新しい分類が、胃がんの発生を予測できるかどうかを検証する研究
3. 内視鏡治療を行ったヘリコバクターピロリ菌陰性胃癌のCagA蛋白検出に関する検討
胃がんの原因とされるピロリ菌に感染していない胃がんについての研究

○肝胆膵領域

4. 急性肝障害時のShear Wave Elastography測定値に影響を与える因子に関する研究
5. C型肝炎患者の抗ウイルス療法時における肝硬度測定に関する研究
6. 自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎におけるShear wave elastographyの研究
超音波で測定するShear Wave Elastography（肝臓の硬さ）に関する研究
様々な肝臓病で肝臓の硬さがどのように変化するのか、その意義を問う研究です
7. 肝硬変患者における腹部CTで評価した筋肉量の変化に関する観察研究（MILE Study）
肝硬変で減少する筋肉量が生命予後にどのように関与するかの研究
兵庫医科大学との多施設共同研究です
8. 人工知能を用いた肝硬変患者に対する栄養指導体制の構築
9. 非アルコール性脂肪性疾患に対する人工知能を用いた栄養指導の試み
人工知能を利用して患者さんの食事を解析して栄養指導へつなげる研究
10. COVID-19感染拡大による行動自粛がアルコール性肝障害患者に与えた影響
11. COVID-19流行と潰瘍性大腸炎の再燃との関連性についての実態調査
新型コロナウイルス感染拡大がそれぞれの患者さんに与えた影響を調べた研究
12. 脂質異常症を伴う原発性胆汁性胆管炎症例におけるペマフィブラートの有用性
難病のひとつである原発性胆汁性胆管炎の新規治療を開拓する臨床研究
13. 胆道閉塞に対する超音波内視鏡下瘻孔形成術の治療成績に関する多施設共同研究
内視鏡を用いた先進技術のひとつである瘻孔形成術の成績を検討する研究

○基礎的研究

14. 潰瘍性大腸炎のマウスモデルを用いた、漢方薬の有用性についての研究
15. 非アルコール性脂肪性肝炎のマウスモデルを用いた、漢方薬の有用性についての研究
重要なふたつの病気において、副作用の少ない漢方薬が有効かどうか検証する研究
主に大学院生の若手医師が取り組んでいます。



消化器内科のスタッフ一同です。新型コロナの感染拡大を受け、最近では集合写真が撮影できません。1年以上前のものになりますが、ご了解ください。